

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

創立50周年
Vol.16
2016.2

学校法人城西大学創立者
水田三喜男伝「寒椿」
講師 鈴木健

 城西大学
 城西短期大学

水田宗子理事長 年頭のあいさつ

今年も創立50周年を 記念する年に

ニュース

キャンパスと近隣自然を愛する活動組織
「ローズマザーズ」発足宣言

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」
小林忠氏講演会 / エリザベス・M・デイリー氏講演会



目次

- 02 水田宗子理事長 [年頭のあいさつ]
今年も創立50周年を
記念する年に
[ニュース]
ライトフェスティバル
師走のキャンパス 冬の夕べを楽しむ
- 04 [紀尾井町から]
国際日本文化シンポジウム
「音のテクスチャ」(TEXTURES of SOUND)
- 05 [ニュース]
小林忠氏講演会
「水田コレクションと浮世絵の魅力」
エリザベス・M・デイリー氏講演会
「映画は私たちの時代の文学である」
- 06 [ニュース]
鈴木健二氏講演会
水田三喜男・元蔵相の最後の「番記者」
「ローズマザーズ」発足宣言
- 07 [シリーズ] 先輩訪問
東光薬品工業代表取締役社長 小林洋一さん
- 08 [シリーズ] 学生互版ワイド
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより]
- 11 [エリア紹介]
鶴ヶ島市 今年4年に一度の「脚折雨乞」の年
越生市 全国初の「ハイキングのまち」宣言
東武線沿線情報
おごせ散策きつぷで越生に出かけませんか

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
2月6日に発足宣言が行われた「ローズマザーズ」。杉林堅次副学長による発足宣言の朗読に続いて、お揃いのブルーのジャンパーを着た父母後援会や同窓会などの代表者の方々や代表顧問の木下高志県議会議員、水田宗子理事長らが壇上に上り、右腕を掲げて発足を祝いました。



水田宗子理事長 年頭のあいさつ

今年も創立50周年を 記念する年に



水田宗子理事長

一人ひとりが努力を

今年の仕事始めは1月7日に行われました。水田宗子理事長は年頭あいさつで、「昨年に続き今年も、創立50周年を記念する大きな年となります。シンポジウムやグローバルレクチャーシリーズも続きます」と周年事業が続くことを強調しました。そのうえで「2016年度には新しい5カ年計画もでき、新たな先生や職員も迎えることとなります。2016年という年は、2015年までに私たちが行ってきたことの成果が見える年でなければならないと思います。5カ年計画を通して、また50周年を通して城西がどういう方向に一步を踏み出したのか、ということが見えるよう、皆さん一人ひとりが努力をしていただきたい」と呼びかけました。

また、森本雅憲学長は「創立50周年を見事にやり遂げたことは、皆さんの団結の力、前に進む力を如実に示した結果ではないかと思えます。そういう姿勢を持って、新しい年、新しい年度の課題を一つひとつ解決していく先に、さらなる50周年があります。個人がそれぞれ私的な向上を行い、課題に取り組むことで成果が高まると思っております」と述べました。

城西国際大学の柳澤伯夫学長は「2017年度に創立25周年を迎える大学にとって、2016年度はどういう形で25周年を迎えるかを真剣に考える年度になります。いろいろなことに考えをめぐらし、思いを深め、覚悟を決めて取り組まなければいけない」と語りました。

第92回箱根駅伝 2016.1.2~1.3

惜しくもシード権獲得ならず 新チームで14年連続出場を目指す



第92回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)は1月2、3日に行われました。13年連続13回目の出場となった男子駅伝部=写真=は総合12位となり、惜しくも2年連続のシード権(10位以内)獲得はなりません。往路は10位と同タイムの11位とまずまずの位置につけ、復路で上位進出を目指しましたが、16位と波に乗れませんでした。

しかし、今回は10人中、初の箱根経験者が6人。また、3年生以下8人がチームに残ります。新チームは、秋の予選会で14年連続14回目の出場を目指します。報告会で榎部静二監督は「今チームは強い卒業生が抜けて、大きくチームが変わらなければならないと強化してきました。目標の5位には届きませんでしたが、新しい芽も出てきました。8人が残り、プラス下の学年たちが強くなって、またここに戻ってきたい。今後もしっかり頑張りたいと思います」と力強く述べました。

新チームの松村陣之助主将(経営学部3年)は、「新チームは、それぞれの個性が強く良い方向に向けばとても強いチームになる。個人の能力が高い選手も数多くいるので、1年間故障をなくして練習に取り組み、箱根駅伝では上位で戦えるようにしたい」と意気込みを語っています。

ニュース

女性リーダー育成奨励生など授与式/永年勤続表彰 2015.12.18

地域社会と国際社会に貢献できる人材に

2015年度の女性リーダー育成奨励生(水田宗子奨学金)などの授与式が昨年12月18日、17号館1階プレゼンテーションルームで開かれました=写真=。授与されたのは63人。水田理事長は「毎年、皆さんの顔を拝見するのが楽しみです。皆さんは、8000人の学生の中から先生方の審査を経て選ばれています。これを大切なこととしてこれから生活していただきたい」と呼びかけました。

学生を代表して、女性リーダー育成奨励生を受けた薬学部薬学科4年の西優美香さんが「創立50周年の記念の年に選ばれたことをうれしく思います。このチャンスを生かし、学内外のセミナーや研究会に参加してさらに教養を深め、多くの人と交流し、目指す女性リーダーになれるよう日々努力してきた。建学の精神に基づき、地域社会と国際社会に貢献できる人材になれるよう精進していきます」と感謝の言葉を述べました。

各制度の人数は次の通り。〈女性リーダー育成奨励生(水田宗子奨学金)〉=5人、〈水田奨学生第一種特待生 1年生〉=10人、〈水田奨学生第二種特待生 2年生以上〉=30人、〈水田三喜男記念奨学生〉=10人、〈キャリア形成奨励・奨励生(渡辺好章奨学金)〉=8人(公認会計士研究会、まちづくりゼミ、硬式野球部、サッカー部、女子ソフトボール部、陸上部各代表含む)



40年勤続5人、30年勤続4人

2015年度の永年勤続表彰が昨年12月18日、清光会館で行われました。40年勤続が5人、30年勤続が4人。表彰者を代表して経済学部の上山邦雄教授が「初期の教え子が教頭を定年になりました。40年は短いようで長いような。この間、私なりに一生懸命に努力し、社会的な活動もして、城西大学の50年にささやかながら貢献できたと思います」と感謝の言葉を述べました。上山教授以外の方々も次の通り。〈40年〉富貴島明・経済学部教授▽近藤誠一・薬学部薬学科教授▽山口貞樹・実験センター事務室▽西尾礼子・就職課、〈30年〉草野素雄・経営学部教授▽白幡晶・薬学部薬学科教授▽夏目秀視・薬学部薬学科教授▽三橋秀行・実験センター事務室

ニュース ライトフェスティバル 2015.12.18

師走のキャンパス 冬の夕べを楽しむ



水田理事長(中)、森本学長(左)、学生・留学生代表がツリー点灯

多彩な模擬店

薬学部「あんず組」のダンス

師走のキャンパスを彩る「ライトフェスティバル」が昨年12月18日に開かれました。今回で6回目。水田記念図書館前の特設ステージでは多彩な余興が繰り広げられたほか、メインストリートでは大連外国語大学留学生による「麻婆豆腐」、硬式野球部員による「とん汁」、V4留学生によるスープやパンケーキなどの模擬店が出て、学生や教職員、多くの地域の方々が冬の夕べを楽しみました。

ライトフェスティバルの司会進行を務めたのは、女性リーダー育成奨励生の大学院薬学研究科2年の板谷友里奈さんと経営学部4年の大川紗季さん。「本学は今年、創立50周年を迎え、記念式典では大勢のゲストをお迎えして素晴らしい式典となりました。本日のライトフェスティバルも素晴らしいものになるよう頑張ります。本学の元気の良さを、このライトフェスティバルでも皆さまにお見せしたい」とあいさつしました。杉林堅次副学長の開会あいさつに続き、水田宗子理

事長、森本雅憲学長、学生・留学生代表によるツリー点灯が行われました。

寒さを吹きとばすように余興のトップバッターは、全学応援団チアリーダー部。「ジングルベル」と「ラストクリスマス」の2曲のクリスマスソングでパワフルなダンスを披露しました。続いて、薬学部の「あんず組」のダンスの後、昨年3月、現代政策学部を卒業して同9月にCDデビューを果たした下松翔さんが、クリスマスソングとオリジナル曲を熱唱しました。

教職員、学生有志や留学生による歌や演奏=写真=、民族舞踊など多彩な余興が展開され、最後は恒例となった経営学部4年の松島愛弥さんによるファイアーダンスで締めくくりました。



紀尾井町から

国際日本文化シンポジウム

2016.1.13~1.14



シンポジウムの様子

「音のテクスチャ」(TEXTURES of SOUND)

——前近代の日本文化における「音や声」

前近代の日本文化における「音や声」をテーマとした国際日本文化シンポジウム「音のテクスチャ」(TEXTURES of SOUND)が1月13、14の両日、東京紀尾井町キャンパスで開かれました。各国で活躍する高名な日本研究者による先端的研究成果の発表があり、オーラリティ(声の文化)や音楽の果たす役割などについて活発な意見交換が行われました。



基調講演するシラネ教授

研究発表をするマコーミック教授

13日の開会式で、水田理事長は「私どもは『世界の中の日本』という講座を手掛けてきました。今回のシンポジウムはその集大成として企画したものです。先端的なテーマを新しい文化の課題として取り上げることによって、人文科学全体の勉強の仕方、あり方に示唆をいただけるシンポジウムにしたいと思っています」と挨拶しまし



特別展示された浮世絵に見入る参加者

た。その後、コロンビア大学のハルオ・シラネ教授が基調講演。シンポジウムを記念して琵琶奏者の川嶋信子さんが、『平家物語』から「祇園精舎」「福原落」「壇ノ浦」の3曲を披露しました=写真。

2日目の14日は、ユージン・ワン教授(ハーバード大学)や大内典教授(宮城学院女子大学)、メリッサ・マコーミック教授(ハーバード大学)、タイモン・スクリーチ教授(ロンドン大学)らによる研究発表と、ユキオ・リベット教授(ハーバード大学)らをコメンテーターにした意見交換と質疑応答がありました。

最後に今回のシンポジウムの企画やプログラムの作成に尽力いただいたマコーミック教授が「城西大学には主催の労を取っていただきありがとうございます。研究者の皆さまには、高いレベルで新しいテーマに取り組んでいただき感謝いたします」と、まとめのスピーチをされました。

両日もシンポジウム後は、レセプションが行われ、著名な研究者を囲んで歓談のひと時を過ごしました。

ニュース

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」

小林忠氏講演会

2015.11.21

「水田コレクションと浮世絵の魅力」

ホールを埋めた約500人が熱心に耳を傾ける



水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環として、2015年11月21日、岡田美術館館長で国際浮世絵学会会長の小林忠氏=写真=を招いた講演会「水田コレクションと浮世絵の魅力」を清光ホールで開催しました。元駐日ハンガリー大使のシュディ・ゾルタン氏ら招待客の方々をはじめ、地域の方々や教職員、学生らホールを埋めた約500人が興味深いお話に熱心に耳を傾けました。

小林氏は1941年、東京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程(美術史専攻)修了。東京国立博物館資料調査室長や学習院大学文学部教授、千葉市美術館館長などを歴任されました。主な著書に「江戸絵画史論」(サントリー学芸賞受賞)、「江戸浮世絵を読む」「江戸の浮世絵」「江戸の絵画」などがあります。

本学の創立者である水田三喜男・元蔵相は、同じく房総出身の浮世絵の創設者・菱川師宣に魅かれ、学生時代から浮世絵を収集。第二次世界大戦の戦火で初期の収集品は消失しましたが、戦後再開して、鈴木春信や喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎



スライドを使って名作を紹介する小林氏

らの役者絵や美人画を中心に収集しました。没後、200点以上の「水田コレクション」が本学の水田美術館に寄贈されています。講演に先立ち、水田宗子理事長は挨拶で「水田コレクションを評価していただいた小林先生は、私どもの美術館にとって非常に大切な恩人であり、美術館の素晴らしい出発点をつくっていただいた。直接、先生からお話をうかがえることは大変幸せなことです」と述べました。

小林氏は、水田三喜男の言葉「浮世絵は楽しいものです。そこには何ともいぬ歴史の懐かしさがにじみ出ています」を紹介しながら、浮世絵の魅力について「人間の基本的な感情に訴えるような表現が埋め込まれているからこそ、現代の私たちも楽しく慰められる」と解説。「文化の背景の違う海外において高く評価されるのは、心の奥底に懐かしさや親しさが浮世絵版画にはあるからだ」と語りました。

エリザベス・M・デイリー氏講演会

2015.12.4

「映画は私たちの時代の文学である」

——「An Argument for the Cinematic Arts in a 21st Century University」

米国・南カリフォルニア大学映画テレビ学部のエリザベス・M・デイリー学部長を招いた講演会が2015年12月4日、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催されました。水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環で、デイリー氏は国際浮世絵学会会長の小林忠氏に次いで、7人目の登壇者となりました。

デイリー氏は1991年、南カリフォルニア大学映画テレビ学部学部長に就任以来、アニメーション・デジタルアート・メディア関連の3学科の新設、ロバート・ゼメキス・センターの創設など、全米ならびに世界をリードする同学部を主導してきました。また、ロサンゼルスの中



講演するデイリー氏

心とするエンターテインメント業界においても、プロデューサー・研究者として多大な貢献を果たし、全米監督協会の会員でもあります。

デイリー氏は「An Argument for the Cinematic Arts in a 21st Century University」と題した講演で、「我々の学部はうさぐさいと思われていたが、今日では変わってきた」と学部の歩みに触

れた後、「映画、テレビ、ニューメディアとメディアが我々の生活に与える影響は非常に大きい。それを学ぶメディア学は、人文科学の中心的な役割を果たすべきだ」と強調。また、様々な著名な映画を挙げ、「映画は私たちの時代の文学である」とも述べました。

ニュース

鈴木健二氏講演会 2016.2.6

水田三喜男・元蔵相の最後の「番記者」

創立者の水田三喜男・元蔵相の評伝「寒椿」(学校法人城西大学出版会刊)の出版を記念して、著者の鈴木健二・城西国際大学客員教授の講演会が2月6日、清光ホールで開かれました。創立50周年を記念したもので、作家の阪正康氏、志賀直温・東京市長はじめ、教職員・学生や地域の方々と約500人が熱心に耳を傾けました。



講演する鈴木健二氏

鈴木氏は元毎日新聞の政治部記者で、最後の「水田番記者」として亡くなる76年まで創立者と間近に接しました。鈴木氏は「水田三喜男の世界と21世紀の日本」と題した講演で、「水田先生は大変な勉強家であり、のどから手がでるようなお金があっても痩せ我慢した清廉な政治家だった」「『憲政の常道に従う』が先生の政治信条だった」などと紹介。「政治の限界を悟り、考えた末に新しい道を教育に求めた」と指摘し、創立間もない頃の資金難に触れて石油連合会の会長から「神様が神様(水田先生)を裏切ることはない」と言われたというエピソードを披露しました。

最後に鈴木氏は、1969年の第1回卒業式の訓示に触れ、「『学問による人間形成』に続く、『人間の形成は、新たな環境を作り出す』とする苦闘と努力の中にこそ求められる」との言葉こそが、水田先生の言いたかったものではないか。城西大学が新たな環境に向けて、さらなる苦闘と努力を重ね、100周年を迎えることを願っています」と結びました。

就職セミナー 2016.1.22

約200社の企業幹部や採用担当者が参加

「2016城西大学就職セミナー」が1月22日、東京・池袋のホテルで開かれ、約200社の企業の幹部や採用担当者が参加しました。第1部では森本雅憲学長の挨拶、大学側出席者の紹介などに続いて薬学部医療栄養学科の真野博教授が「ハッピーエイジングと食生活」と題して講演しました。

第2部の懇親会では、水田宗子理事長が「創立50周年を迎えた大学は、地域の皆様、多くの企業の皆様に支えられて発展することができました。また、様々な創立50周年事業につきましてもご協力とご支援をいただき心から感謝いたします。学生が社会に出ていくことは、人生の大きな節目です。今年だけでなく、将来も私どもを応援していただけますようお願いいたします」と挨拶しました。森本学長が乾杯の音頭をとり、会場では企業担当者と本学の教員らとの歓談と交流が続きました。

環境保全活動組織発足 2016.2.6

キャンパスと近隣自然を愛する活動組織「ローズマザーズ」発足宣言

キャンパスと近隣の自然を愛する活動組織「ローズマザーズ」が発足しました。城西大学と城西国際大学、城西短期大学と深いかわりを持つお母さま方、また本学が立地する地域のお母さま方を中心に組織し、キャンパスと近隣の安心・安全の確保、自然豊かな環境保全などの活動を展開していきます。

ローズマザーズの名称は、2013年10月に本キャンパス内に開園した「水田清子記念ローズガーデン」にちなんで、付けられました。

2月6日に開かれた水田三喜男伝「寒椿」の出版記念講演会に引き続いて、発足宣言が行われました。杉林堅次副学長が宣言を読み上げ、父母後援会や同窓会、地域のそれぞれの代表の方々、代表顧問の木下高志県議会議員、水田宗子理事長が、お揃いのジャンパー姿で壇上に上り、「頑張りましょう」の掛け声に右手を挙げて応えました。

発足宣言に先立ち、水田理事長は「まだ小さなグループですが、これを大きなものに発展させていきたい。代表顧問に木下県議をお願いしているように男性も入っていただけるものになっている」と多くの参加を呼び掛けました。

同窓会支部長会 2016.1.9

全国に42ある支部を中心に活動

城西大学同窓会支部長会が1月9日、東京・紀尾井町キャンパス3号棟で開かれました。城西大学を卒業した同窓生は、約7万5000人おり、全国で42ある支部を中心に活動しています。

会議では、鈴木文雄同窓会長(経済学部3期生)が挨拶。「昨年の創立50周年記念式典に多くの同窓生が参加し、また、同窓会支部会より寄付をいただき、水田宗子理事長も感謝していました。全国に約780の大学がありますが、同窓生の数では、城西大学は88番目です。ある信用調査会社によりますと、非常に多くの卒業生が会社の社長になっているように同窓生の活躍が目立ちます。今後も母校を思い、その名声高揚のために努めていきたいと思えます」と述べました。

会議では、今後の支部活動などについて話し合いが行われました。また、正月に行われた箱根駅伝を振り返りながら「東京五輪が開かれる2020年は、城西大学同窓会の設立50周年にあたる。大学関係者、同窓生らが一体となって、箱根駅伝の優勝を実現させたい」との声があがっていました。



紀尾井町キャンパス内に昨春オープンした同窓会室を見学

シリーズ

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は東光薬品工業代表取締役社長の小林洋一さん(45)を東京都足立区の本社に訪ねました。

人間力に磨きをかけることが夢や目標を成し遂げる近道



東光薬品工業代表取締役社長 小林 洋一さん (1993年薬学部薬学科卒)

— 薬学部を選ばれた理由は。

「父親が製薬会社を経営していたことや、姉が薬学部に進学していた関係から薬剤師に興味を持っていました。また、塗り薬や貼り薬の外用剤の会社でしたので、当時から経皮吸収分野を研究されていた森本雅憲先生(現学長)の研究室で学びたかったためです」

— どんな学生生活でしたか。

「高校時代にバドミントン部だった関係で大学でも薬学部のサークルであるキャロットというバドミントンサークルで部長を務めました。また、薬学部内にあった5チームほどの先輩後輩混合の草野球のチームや研究室対抗のソフトボール大会などで非常に白熱したのを覚えています。また、スキーも流行っていたのでサークルや友人とで毎年遊びに行っていました。そんな関係で、多方面に友人関係が構築できましたね」

— これまでの最大の転機は何だったでしょうか。

「大学4年間に加え、大学院博士課程まで9年間、城西大学にお世話になったので、人生の5分の1を大学の教職員や企業の研究生、同級生や先輩、後輩を通じていろいろと学ばせていただきました。何事も自分の考えの主張だけでなく人の意見も取り入れる、ということの大切さや、先生から全て教えてもらうのではなく自分から興味を持ち習得することの大切さなどを学び、人間として少しは成長でき、人生の転機となったのかなと思います」

— 昨年、白血病治療剤の開発で日本癌学会「学術賞」を受賞されました。

「外用剤企業ですので『人の命を助ける薬の開発』は創業以来の夢でした。日本で国際誕生*する新薬は年に数個と言われてはいますが、奇跡的に、その開発に当社が成功することができました。また、産官学連携で開発を成功させたこと、おそらく

戦後に中小企業で新薬承認取得できた初事例であること、錠剤設備も有していない外用剤の企業が経口剤の新薬開発を成功させたことなど、本当に奇跡的な事例となりました。ですが、本当に新薬開発中は人材も少なく、お金も経験もなく、取引企業や金融機関からの信頼も低下し、何度も何度も挫折しました。社員一同で協力し、決してあきらめずに夢に向かって挑戦した結果だと思います」

— 座右の銘、もしくは好きな言葉を教えてください。

「『有言実行』という言葉が大好きです。目標や夢を皆の前で口に出して掲げ、それを実行して成し遂げることで本当に大変だし、決してあきらめない気持ちで取り掛かり、何かを成し遂げられることは本当に素晴らしいことだと思います」

— 後輩へメッセージをいただけますか。

「学生時代はあっという間です。社会に出ると人間関係で苦労すると思います。ですが、何か自分の夢や目標を成し遂げるために一番頼りになるのは、お金や物でなく、協力してくれる人だと思います。一人では、なにもできません。ぜひ、学生時代にたくさんの友人や先輩や後輩、教職員の方と、メールなどでなく直接的な交流をたくさん持って、自身の人間力に磨きをかけてほしいです。それが、自分の夢や目標を成し遂げるための近道であり、必要不可欠だと思います」

■東光薬品工業株式会社

1974年設立。資本金8000万円。従業員250人。本社:東京都足立区新田3-8-19。釧路工場:北海道釧路市益浦3-19-12。小林氏受賞歴:日本薬学会「創薬科学賞」(2006年)▽科学技術振興機構「井上春成賞」▽優良企業表彰制度「最優秀賞」(2007年)▽東京商工会議所「勇気ある経営大賞」(同)▽日本癌学会「学術賞」(2015年)

(※)「国際誕生」:日本または外国で初めて、該当する医薬品の製造または販売が認められること。

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

カーリングはとても奥の深いスポーツ

「カーリングチーム城西大学」代表 浅見明彦さん(薬学部3年)

「狙い通りのショットが決まったときは、達成感を味わえる」。「カーリングチーム城西大学」代表の浅見明彦さん(薬学部3年)は、こう話す。

カーリングはストーンを投げて終わりではなく、スウィーパー(ブラシで氷面を掃く人)やスキップ(試合中に指示を出す人)など全員の協力があって初めて、狙い通りのショットを決めることができる＝写真。ミスをカバーし合うので、メンバー同士の信頼感を高めることもできるという。

チームの7人全員が入学後に始めた初心者だ。毎月1～2回開かれる東京カーリングクラブ主催の練習会への参加と年2回の合宿、年間約2回の大会に出場している。2013年には全日本大学選手権にも出場した。

施設が少ないため、練習が思うようにできないことも多い。しかし、ここ数年はオリンピックなどで競技が取り上げられることも

あり、注目度は以前よりも増してきているという。

「カーリングはマイナーなスポーツだが、とても奥の深いスポーツ。Twitterなどもやっています。学部学年問わず大歓迎です」と、浅見さんは多くの参加を呼び掛けている。

取材:青島大志(薬学部3年)



地域・市民と連携する「Social Management」

経済学部勝浦ゼミナールIゼミ長 田中佑季さん(経済学部3年)

経済学部の勝浦ゼミナールでは、「Social Management」と呼ばれる活動を行っている。地域の自治体、NPO法人、市民団体などと連携・協働を進め、地域課題の解決を通して新

しい価値の創造を目指すものだ。

東武東上線若葉駅西口に駅前広場がある。閑散としている駅前広場に賑わいを創ろうと、実行委員会を立ち上げて広場で国際フェスティバルを開催した。延べ1500人以上の来場者があり、地域の人々を大いに楽しませた。

また、がん対策・小児がん治療薬の研究開発への支援活動や子育ての支援事業にも参加している。イベントでは自治体などの打ち合わせや提出書類の作成は大変だが、イベントが成功して自治体や市民の方にほめられたときは達成感を味わえるそうだ。活動を通じて交渉力や問題解決能力が自然と身につく、地域の活性化を自らの五感で実感できる。参加の外国の方との交流で外国語でのコミュニケーション能力も高められるという。

ゼミ長の田中佑季さんは「地域に密着した仕事に就き、地域の末端から人々の暮らしを豊かにし、地域を活性化させたい」と夢を語ってくれた。

取材:吉澤優太(経済学部2年)



勝浦ゼミの面々

写真に興味があれば気軽に足を運んで

写真部部长 榎啓太さん(現代政策学部2年)

写真部は、本格的な一眼レフカメラからデジタルカメラまで、一人ひとりがお気に入りのカメラスタイルで写真を撮影している。作品展示会では、メンバー各自が撮影したお気に入りの1枚を出品しているという。

現在部員は、男性17人、女性8人の計25人。毎週水曜日の昼休みに部会を開き、1カ月に1回程度、撮影会を行っている。撮影会の場所を決めるのは大変だが、自分たちが納得できる写真を撮って、それを展示会に出品したときは達成感を味わえるという。写真を撮ることで、思い出を作ることができるのも写真の魅力だ。

「部員全員が楽しいと思える部活になるよう、みんなで頑張っていきたい。初心者から始めた人も多いため、少しでも写真に興味

があれば気軽に足を運んでほしい」。部長の榎啓太さんはこう語っている。

取材:吉澤優太(経済学部2年)



写真部のメンバー

委員会の雰囲気はとても明るくて賑やか

中央委員会第39期委員長 菅浩太さん(経済学部3年)

城西大学には多くの委員会や部活動の団体がある。中でも全学の代表として、城西生がより良い学生生活を送ることができるように活動しているのが、中央委員会だ。

勧誘活動の運営、各団体の予算の監査や役員交代式のサポート、学友館の無線LANの管理やその他学生課から依頼されたさまざまな学校行事の手伝いなど活動は多岐にわたる。

委員会メンバーは現在17人。高麗祭、卒業アルバム、体育祭、生活、広報の各委員会から派遣されて役員が構成されている。委員会の雰囲気はとても明るくて賑やかだ。しかし、仕事をするときには真剣に取り組み、遊ぶ時は大いに遊んでいる。ひとつひとつの行事が中央委員会だけでなく、下部団体や他の統括団体などにも影響するため、責任感をもって注意を払いながら活動しているという。それだけに、大学のために貢献しているというやりがいにもつながっているようだ。

「社会に出て必要なスキルが必ず身につくので、新入生は何かしらの団体や部活、サークルに入ってほしい。中央委員会は、学生目線を大事にしてサポートしていく。大学も50周年を迎

え、学生団体全体で新しい城西を創っていききたい」と、菅浩太さんは意気込みを語っている。

取材:宮田諒汰(経営学部3年)



中央委員会メンバー(中央が菅さん)

図書館だより

城西大学創立50周年記念読書感想文コンテスト表彰式

創立50周年を記念して、若い世代に読書の楽しさ・素晴らしさを体験してもらい読書が習慣化するように、地域と連携した読書感想文コンテストを実施しました。部門1(中高生の部)145人、部門2(大学生・短大生の部)100人の応募者からグランプリ1人、準グランプリ1人、優秀賞8人が決まり、昨年12月18



受賞者と本学関係者の記念撮影

日に表彰式を行いました。受賞者の中学生は同伴された保護者、先生とともに図書館を見学し、授賞式後にはライトフェスティバルも楽しんでいただきました。受賞者は以下の通り(敬称略)。

【グランプリ】「教養によって導かれる国際性」植田瑞美(城西大学薬学部2年)＝書名「緒方貞子―戦争が終わらないこの世界で」(小山靖史著)【準グランプリ】「ディズニーから学んだこと」小山彩華(武南中2年)＝書名「ディズニーランドであった心温まる物語」(香取貴信監修、東京ディズニーランド卒業生有志著)【優秀賞】遠藤勝敬(西武台新座中1年)▽野呂笑莉(同)▽小柴いづみ(武南中1年)▽伊藤佳(同2年)▽佐々木智也(さいたま市立土呂中1年)▽前田のぞみ(城西大学現代政策学部2年)▽長井建太(城西大学薬学部1年)▽内藤真也(城西大学現代政策学部2年)

城西大学創立50周年記念 図書館講演会を開催

昨年11月25日に、図書館9階において城西大学創立50周年記念図書館講演会、第7回地域相互協力図書館(坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町)合同主催公開講座「TPPとアメリカの世界戦略：オバマ政権の推進するTPPの真の

狙いは何か」を開催しました。暮らしに密接にかかわる内容とあって、91人という多くの方が参加し、講師の経済学部教授・庄司啓一先生のお話を熱心に聴講されました＝写真。また、講演後には図書館見学ツアーを実施し、13人が参加しました。



図書館学生アドバイザーによるライブラリーラウンジを開催



昨年11月24日、グループ学習室6Bにおいて第6回ライブラリーラウンジ「あなたのコミュニケーション能力って…就活で活かれますか??」を開催し17人が参加、また12月11日には視聴覚室において第7回ライブラリーラウンジ「人を惹き付けるコミュニケーションの心理術」を開催し13人が参加しました＝写

真。どちらも学生アドバイザーが企画・進行を担当。それぞれの就職活動の経験や授業で学んだ成果を活かした催しとなりました。



第17回図書館総合展ポスターセッションに参加

昨年11月10～12日、パシフィコ横浜で開催された第17回図書館総合展ポスターセッションに「図書館で就活～キャリア支援の取り組み～」というテーマで参加しました。就職支援図書コーナーの設置、就職課と共催の就活D

VD上映会や図書館学生アドバイザーによる就活体験報告会の開催など、図書館における数々のキャリア支援の取り組みを紹介しました＝写真。

エリア紹介

鶴ヶ島市

今年は4年に一度の「脚折雨乞」の年

脚折雨乞は国選択無形民俗文化財、市指定無形文化財に指定される江戸時代から継承されてきた鶴ヶ島市の伝統行事ですが、昭和39年を最後に一度途切れてしまいましたが、行事によって生まれる地域の絆を大切に思う住民によって「脚折雨乞行事保存会」が組織され、昭和51年に復活、以来現在まで大切に保存継承されています。

脚折雨乞の特徴は、長さ36尺、重さ3トもある「龍蛇」を作って雨乞いを行うことです。龍蛇



は、白鬚神社前で麦わらと孟宗竹、荒縄によって作られます。雨乞行事当日、出発前の入魂の儀により「龍神」となります。この巨大な龍神を、300人の男たちが雷電池までの約2キロを担いで練り歩きます＝写真。雷電池に到着すると、龍神を池に入れて、「雨降れたんじやく、ここに懸かれ黒雲」と必死に叫び雨乞いを行います。

雨乞行事は、池の中でクライマックスに達します。最後は龍神を一斉に解体。頭部に付けられた金色の宝珠を、我先にと競って奪い合う様子は、非常に豪快で見る者も圧倒されます。

開催日時は8月7日(日)午後1時、白鬚神社から雷電池へ向けて出発、午後3時半に雷電池に入ります。ぜひともご覧ください。

東武線沿線情報

おごせ散策きっぷで越生にかけませんか

東武東上線では、越生でいろいろトクするクーポン「おごせ散策きっぷ」＝写真＝を発売しております。「おごせ散策きっぷ」には、越生駅までの東上線往復運賃割引とバス1日乗り放題(越生～黒山間)、または620円分(小児310円分)のお買い物券(越生観光案内所(オーティック)もしくは越生自然休養村センターで利用できます)と協賛店での割引サービスがついています。



2月中旬～3月

下旬には、「梅まつり」が開催される越生梅林がオススメです! 青い空に映える梅の花の下で、お弁当を広げたり、屋台で買ったグルメを楽しんだりしませんか。様々なイベントが催され、多くの人で賑わいます。

4月下旬～5月上旬は、五大尊つつじ公園がオススメです。小高い里山の斜面を彩るツツジの配色は、見る場所や方向によってさまざまな絵となり、訪れる人を楽しませてくれます。

越生でゆっくり旅してみませんか? 「おごせ散策きっぷ」で越生へ、是非お出かけください。金額は駅によって異なり、川角駅で購入する場合は大人830円となります。

越生町

全国初の「ハイキングのまち」宣言

越生町では4月29日(昭和の日)に全国で初めて「ハイキングのまち」を宣言します。当日は、セレモニーを行うとともに宣言記念大会として第19回花の里おごせ健康づくりウォーキング大会を行います。この大会は、体力に合わせて3つのコースから選択できます。家族などでのんびり歩く場合は8キロコース、10キロコース。そして、自信のある方には15キロコースを用意してあります。



コース沿いには、満開のヤマブキ、菜の花で彩られた田んぼや関東一のつつじ園としても有名な五大尊つつじ公園を通るなど花と新緑を楽しめます。

事前申込者には特典として、オリジナル缶バッジと携帯トイレをプレゼントします。また、参加者全員にコース地図、スタンプラリーカード、ハイキングガイドマップを贈呈します。

ぜひ、「ハイキングのまち」越生にお越しください＝写真。

詳しくは、越生町ホームページまたは越生町役場産業観光課(☎049-292-3121/平日午前8:30～午後5:15)まで。

編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL 049-271-7712
http://www.josai.ac.jp